「家康公検定」

永禄9年(1566)、25歳の時に「徳川」と改姓

松平家初代の親氏は松平氏の娘婿で、時宗の僧侶・徳阿弥(とくあみ)から還俗した人物です。そして、その出自が上野国新田郡(群馬県太田市)を治めた新田氏の支族の得川氏であったことから、系図を男系とするため、朝廷に松平から徳川への改姓を願い出て、勅許されたのが 25 歳の岡崎在城時代のことです。まさに 265 年の平和な江戸時代を築いた徳川将軍家は岡崎に始まっているのです。このあたりも家康公にとって大きな転機となっているので、出題されるような気がします。

その他、岡崎在城時代の主な出来事は

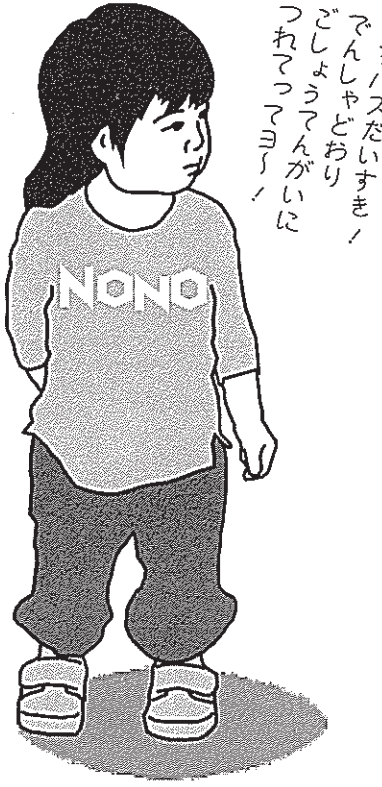
天文 13 年(1544)・3歳
広忠が於大を離別。理由は刈屋城主水野信元(於大の兄)が、今川を離れ織田方となったため
天文 16 年(1547)・6歳
人質として駿河に向かうが途中、田原城主戸田康光に奪われ、尾張の織田信秀の元に送られる
永禄3年(1560)・19 歳
大高城(名古屋市)に兵糧を入れる。桶狭間の合戦
永禄4年(1561)・20 歳
織田信長と和睦する。西三河を平定する
永禄5年(1562)・21 歳
上ノ郷城(蒲郡市)の鵜殿長照を落とし、人質交換により妻築山殿と嫡子竹千代(信康)を岡崎に迎える
永禄6年(1563)・22 歳
家康と改名する。三河一向一揆が起こる。翌年鎮定
永禄8年(1565)・24 歳
本多重次、高力清長、天野康景を三河三奉行とする
永禄 10 年(1567)・26 歳
嫡子信康が織田信長の娘徳姫を娶る
元亀元年(1570)・29 歳
信長と浅井長政・朝倉景健を姉川(長浜市)で破る

■発行
電車どおり5商店街
○能見北発展会
○本町晴明ストリート
○岡崎銀座商店街振興組合
○殿橋通発展会
○岡崎明大寺商店街振興組合
■協力
岡崎商工会議所
岡崎市観光協会
街情報ステーション
■編集協力
おかざき塾
三河・岡崎のタウン誌「リバーシブル」

電車どおり岡崎

2009年(平成21年)9月・10月・11月(第19号)

電車どおりの住民がご近所のネットワークを活かしまち歩きを楽しくするオススメポイントをご紹介。



岡崎のご当地検定は

どんな問題がでるのか？大胆予測してみました！

上の写真は岡崎公園にある 19 歳の家康公の騎馬像です。永禄3年(1560)の桶狭間の合戦で織田信長に今川義元が討たれ、岡崎城に戻ってきた時の姿です。当時の名前は「元康」で、「元」の一字は今川義元から拝領したもの。つまり、岡崎市のご当地検定で、しかも「家康公検定」というのだから、家康公が岡崎城に在城した 19 歳から 29 歳までの期間と、生誕から6歳で人質となるまでの出来事が色々と出題されるのではないかと思われます。

天文11年(1542)12月26日に岡崎城で生誕

城で一番目立つのは天守閣。そんなことから、家康公の生誕した場所を、てっきり天守閣と思い込んでいる人も多いのでは。でもこれはまったくの勘違い。正解は岡崎城内の「坂谷邸」です。場所は天守閣の西、近くに「東照公産湯の井戸」があります。父は松平氏8代「広忠(ひろただ)」、母は三河刈屋藩水野家より嫁いできた「於大(おだい)」、家康公の幼名は「竹千代」です。このあたりは必須と思います。